

秘書学論集

平成5年3月

目次

<論文>

秘書の業務する空間に関する基礎研究

—— コミュニケーションする空間の組織化 ——

…………… 乳井 克憲, 丹治 和典, 梅村 匡史, 米坂スザンヌ 3

<報告>

アドミニストラティブ・アシスタント再考……………武田 秀子 19

法律秘書の現状……………森本 敦司 29

秘書資格認定試験から見たドイツの秘書の特性……………野添 雅義 41

<研究ノート>

秘書教育における情報教育の研究

—— 情報活用能力育成の視点から —— ……………戸田 昭直 65

秘書の職務設計モデル

—— 職務特性理論を適用して —— ……………大津 洋子 77

No.11 1993

日本秘書学会

昨年12月25・26の両日、首都高速道路を駆ける自動車の振動が窓ガラスをかすかにゆるがす渋谷のホテルで会議をしました。

今回は応募数は多かったものの、残念ながら掲載に至らなかったものがありました。

今後の参考に、言わずもがなのことですが、以下の点に気をつけて下さい。

(1)「論旨が一貫していること」 論文の前半と後半でがらりと変わってしまい、二つの論文をつないだようでは困ります。文中で矛盾する点があって、どちらが本当か判らないのも困ります。

(2)「先行研究の調査と整理」 自分の論文に関係する先行研究を調べあげて、どういう説があるか、どこまで解明されているかを先ず明らかにし、その上にとって自説を展開し、自説が従来解明できなかったどの点を解明したか、従来の説と自説とどちらがうかを明らかにしなければなりません。又引用する場合は必ず原典にあたって調べなければなりません。秘書学は歴史が残いので、原典及びコピーも入手可能です。

(3)「調査」の場合は、質問内容を精選したり、項目数はある程度そろえないと信頼度が低くなります。調査のヴェテランに助言を求めるのもよいと思われま。調査結果を羅列するだけでなく、考察を加えないと完成したことになりません。

今回掲載のものは、論文としては研究助成の対象となった「秘書の業務する空間に関する基礎研究」です。第11回大会で報告が行われているので、ご承知かと思いますが、本研究の何よりの特色は、

秘書を「企業や組織体の空間に関わってコミュニケーションしている人」ととらえている点です。

報告としては、3編です。「アドミニストラティブ・アシスタント再考」は第10回大会で発表されています。アドミニストラティブ・アシスタントは「秘書的職務を果しながら、部分的には管理責任をになっているポストに就き業務を遂行している女性」のことで、アメリカの実情を紹介し、日本の場合どうかについても論述されています。

『法律秘書』の現状も、第11回大会で発表されています。弁護士事務所の職員のみ限定せず、司法書士・弁理士・行政書士・税理士などを補佐する者、企業の法務部、裁判官・検察官を補佐する者まで範囲を広げています。『秘書資格認定試験』からみたドイツの秘書の特性も第11回大会で発表されています。ドイツ秘書学の研究は少ないので、試験制度を通してドイツの秘書事情の一端が明らかになりました。研究ノートは2編で、「秘書教育における情報教育の研究」も第11回大会で発表されています。秘書教育におけるコンピュータ・リテラシーをどう育成するかの提言もなされています。「秘書の職務設計モデル」は、アメリカの「職務設計論」を紹介しながら、それがわが国の秘書の場合どうなるかを考察しています。

最後に、ワープロ原稿がほとんどになってきましたが、かえって誤字脱字、「テニヲハ」のまちがいがふえています。ワープロの場合、一段と推敲に注意して下さい。

〔福永弘之記〕

■編集委員 福永弘之(委員長)、岡田 聚、佐藤啓子、佐藤東九男、田中篤子、中佐古勇、吉田寛治

秘書学論集
No.11 1993
平成5年3月発行

発行 日本秘書学会編集委員会
〒004 札幌市豊平区清田4条1丁目4番1号
静修短期大学内
TEL(011)883-2490
制作 (株)アイワード
TEL(011)241-9341(代)